

第13回「親心を育む会」会議記録

日時 : 平成20年12月15日(月) 14:10~16:55
場所 : 第三なでしこ 3階 支援センター室
出席数 : 15名

0. 勉強会「子育て支援センター」について

(※事務局注 年末ということもあって、開始時点での集まりがいまいちでした。そこで、皆さんが揃うまで、急遽、来年度から本格的に子育て支援センターを開設されるたから保育園さんからの疑問を、話し合ってみましょうということになりました。これから支援センターを考えておられる園さん、必見です。)

T保育園 M先生 ; 突然の質問で申し訳ありません。行政から来年度支援センターを開設してくれるよう、園に要請がありまして。いろいろとお聞かせいただければと思います。

お聞きしたいことは、子育て支援センターで、子育てサークル活動のグループ、園庭開放の際などに来園されている親子さんの活動グループなのですが、センターとしてそのようなサークルに場所を提供したりしているのでしょうか？また、その際センター担当保育士はどういった位置にいればよいのか、教えてください。

N保育園 W先生 ; サークルは、この支援センターで生まれたものや、ほかのところでできたものもあります。サークルに活動場所として支援センターの部屋を貸すこともあります。ただし、場所の提供のみで、子どもさんは預かっていません。

うちも、サークルの育成には力を入れています。最初はそのグループに支援センター職員がサポートとして付き合います。そのサポートについては、対象となるお母さんたちと綿密に話し合いますね。支援センター職員とお母さん達のつながりを意識しています。

松居先生 ; そのようなつながりは大事ですね。お母さんたちが孤立しないように。親子を引き離さないように子育て支援をする、これは発想の原点としては、とてもいいことだと思います。

W先生 ; 電話相談などの場合、ケースによっては戸別訪問することもあります。

M先生；たとえば、既存のグループサークルで、上の子がこの保育園以外の幼稚園などに通っている場合など、どのようにしておられますか？

W先生；ああ、そういう場合も来るもの拒まず、ですね。上のお子さんが幼稚園に通っているようなグループでも、場所の提供はします。

A保育園 I先生；当園も昭和57、8年ごろより、保育園の1室を支援センターとして開いています。地域にも定着しています。最初お母さん達の「自分たちでやろう」という主体性を重視していましたが、今はセンター職員に「おんぶに抱っこ」状態ですね。こちらがあまりお母さんたちに自主性を強制しすぎても、支援センターから足が遠のいてしまいますから…。お母さんたちがお客様状態であるものから、いきなり手を引くことは大変ですね。

M先生；「一時保育」と「在園児」と「支援センター」のお子さんたちは、どう区別しておられますか？今、「一時保育」は在園児とは違う名札を付けてもらっていて、一目で「一時保育」のお子さんだとわかるようにしているのですが、支援センターに来ているおさんはどうされているのですか？

W先生；園庭開放などで入所していないおさんと在園児は一緒にできませんね。園庭の使用なども、時間で分けています。名札は付けてもらっています。

事務局 高木；うちの場合、園庭開放などにきたお子さんには受付をしてもらい、名前をラベルシールなどに書いてもらって、お洋服の上に貼ってもらっています。

松居先生；子育て支援の子どもと在園児とのかかわりに関する規定はないのですか？（確立したものはないです、と口々に）

W先生；在園児と一緒にすると、在園児の保育士がいるため、子育て支援に来たお母さんが、子どもを保育士に任せる雰囲気になってしまっ。若い保育士などは右往左往してしまいますね（笑）。

松居先生；この園の方針としてはこうですよ、といったものがホームページなどに掲載されているとよいのではないですか。「子育て支援センター利用の心得」のようなものが。

園同士の情報交換でノウハウを園が身につけていかないといけません。ある園で支援センターをやってみたら、センターに来る子どもまで、在園児の保育士が見るような結果になってしまうこともある。そのところをはっき

りさせていかないといけないような気がします。支援センターに来る親が、自分の子どもから目を離すことがないような一線を守るといったような。

実際は、保育園で支援センターをやるということは、在園児やセンター利用児などが一つの敷地の中で混じるわけです。そこまで考えて、支援センターをやらないと、混乱しますよね。

M先生；行政から支援センターなら、5 時間以上開所して、開放するように言われています。その時間帯は自由に利用者が出入りできるようにしてください。今の段階では、正式なものではないので、宣伝などしていない為か、ぼつぼつしか来ていないので何とか対応できていますが、いつでも来て良いとなると、どうなるのか想像もつきません。

松居先生；子育て支援センターに来るお子さんは親御さんが見るという、コンセンサスが必要ですね。それでも、子どもたちが一つの敷地内にいけば、よほどスペースに余裕がないと、はっきり分けることは困難でしょうね。保育園は園によってずいぶん環境が違いますからね。

K保育園 O先生；現状確認をさせてください。どういう部屋を支援センターに当てるのか。通常保育室との位置関係とか、園庭の問題なのか。たとえば、プレイセンターみたいな親が主体的に子どもとかかわっていける場所にするのか。何かにつけてセンター職員がお母さんたちを応援していると、依存してくる可能性がありますから、そこら辺をクリアにされていくといいのではないのでしょうか。

たとえば、うちの保育園で「お父さん遠足」を行っています。実際父親の参加は 3 分の 1 程度ですが、お父さんが来られない子どもは、担当保育士が出席しているお父さんに振り分けて、保育士は子どもの面倒をみないことにしています（笑）。遠足が終わるころには、お父さんたちは疲れていますが、すがすがしい顔をしています。

支援が受けられると、いつしかそれが当たり前になってしまうという現実があります。横浜市で活動している NPO 法人びーのびーの (<http://www.bi-no.org/>) などはいいい情報を持っていますよ。ご参考までに。

M先生；ありがとうございます。さらに質問よろしいですか？園児外の園行事参加は皆さんどうされていますか？たとえば、おいも掘りやお餅つき。今、うちでは人数制限をし、参加費を 300 円程度いただいているのですが、皆さんのところではいかがですか？

I 先生；運動会やお店屋さんごっこにも受け入れていますね。許容範囲内で、ですけど。

M先生；うちも運動会ではその子たちの該当年齢の最後にかけてこなどは参加してもらったり、おいも掘りなどは天候によっては中止にしたりしますが、これからお餅つきもあるので、どうしようかと。

W先生；その園の許容範囲内でいいのではないですか？

松居先生；「お餅つき」といえば、衛生面。最近うるさくなっていますが、どうでしょう。

O先生；よほど、熟練していないと、衛生面は守りきれませんよ。衛生面にこだわりすぎて、大事なものが忘れられているような気がします。子どもにとって、肌を通して得られる感覚は貴重なものです。今ちょうど読んでいるところなのですが、「子どもの脳は肌にある」（山口創著 光文社新書）などにも書かれています。

たとえば、衛生面にこだわっていると、下痢などが出だすと、保育園全体がピリピリしてきます。お餅つきにしても、職員の検便はもちろんですが、手袋・マスク・帽子着用、挙句の果てに服も普段の服ではなく、防護服みたいなものを着て、餅をつく。そんなお餅つきをやっている園が増えていますよ。それで、わが園は感染予防に関しては完璧ですと、自慢げに言う方も。ある園では、実際についた餅は不衛生なので、園児の口に入る餅は購入したもの、なんていうところもありました。

松居先生；魂が抜けていますよ（笑）

O先生；変でしょう？そんなお餅つき。食べたいと思います？

松居先生；訴訟社会と裁判員制度が入ってくると、もっと崩れます。アメリカでは虐待の訴訟を恐れて「子どもに触らず保育せよ」という園長がいるくらいですから。

O先生；悲しい。何のためのお餅つきなのですかね。

松居先生；本末転倒です。社会全体で抗生物質を摂取しすぎて、抵抗力がなくなっていくのに似ていますね。感染症を恐れて、「何か」に対して弱い人間が作られてきています。学校のいじめや不登校は、教育界の「院内感染」かもしれませんね。「絆」という免疫が消えて抵抗力がなくなっている。

○先生；いろいろやろうとすると、必ずその後ろにリスクがあります。しかし、リスクを気にしすぎると、本物がなくなっていく。

事務局 高木；ほかにご質問は？

M先生；子育て支援のご案内とか、どのようにされていますか？園の月のお誕生会に参加や、プールの開放とか。

プール開放って、中の水はどうされていますか？園児と共有ですか？それとも事前に利用者にぎょう虫検査とかしてもらっているのですか？

給食はどうされていますか？園のものを提供したりしていますか？

I先生；子育て支援のプールは園児と別に用意したり、園児が使用する大きいプールを利用する場合は、園児が利用した後にしたりしています。ぎょう虫などの検査は特にはしていませんね。

給食についてはお弁当持参です。

W先生；うちもそんな感じですかね。

○先生；支援センターに行事があると来る、という神経がちょっと良く分からないですが。

松居先生；単体の子育て支援センターを見ていると、保育所に併設されていた方が良いように感じます。保育所でやってもらって、保育士さんに相談できる、助言してくれる保育士がいて、責任者である園長の目があるという環境は良いと思います。ただ、お母さんたちが支援センターだけに集まっているだけの姿を見ると、ちょっと不安になるのですが。もう少し、人間的に自然に垣根を越えられるようにしたいですね。それをするには、ある程度の規則をつくったり、園側のリスクを理解した上で、園長先生の自主的な決断に任せる部分が必要だと思います。

I先生；バランスが難しいと感じています。親を主体にしたいけれども、受け手である親にその準備がないです。

○先生；それには保育士さんが支援センター担当としてついているのですよね。

I先生；そうです。

松居先生；ただ単に、親と子どもだけがいるという事ではなく、他の世代が同じ場所にいるということが大切なのだと思います。そのいろいろな世代から

母親たちが何となく見られている。園長先生がそこにいる。親たちが保育士に依存するような体制だけは取らないように気をつけなければいけないのだと思います。

園部代表；行政がいろいろ子育てのサービスを求めてくるのです。親子の絆づくりのためには、至れり尽くせりやしましょう、という感じがします。

M先生；月～金 5 時間開所して、カリキュラムを組んでやるという方向で考えています。年齢別の読み聞かせや作ろう会の企画を年間で計画するしかないのかと。本当に試行錯誤です。園庭開放もだんだん参加者が増えてきて…、これが毎日になると本当に不安です。

先日行政から見学に来て「もっと大々的にやってください」と。「大々的」って…。

I 先生；お役所サイドは、トラブルについては非常に敏感です。安全衛生面については特に気を使う分野だと思います。保育園児と支援の子どもたちが混合になって活動する場面で問題が生じた場合は、逆に行政の方に問題を提示し、一緒に解決していく姿勢がよいと思います。

また、他でやっている園とも連携して、行政に直接意見や疑問をあげていくのもよいではないでしょうか。

O先生；各保育団体でも、この件に関して、団体として意見書を行政に出すことはしていないので、この会でぜひいかがですか？

松居先生；子育て支援センターがあることにより、児童虐待を防ぐことが出来ているのは事実です。子育て支援センターには価値がありますよ。しかし、行政の側が園の都合や保育の現場をあまり理解していない。

園部代表；保育園に来ている親は育児の不安が少ないですよ。在宅の子育ての場合の方が不安を強く感じるようです。

松居先生；子育てしていて「不安」が無いのはおかしいです。園に任せているから大丈夫では、親心が育たない。離乳食を食べない悩みなど、担当保育士に話しているうちに解決していく。しっかりおろおろする＝「親の愛情」だと思いますが、そこから逃げようとしている親が多いです。子育て支援センターは、親を子育てから逃さない、そして不安を取り除く、その両立を目指しているわけです。

園部代表；やはり病児・病後児保育は親心を育む弊害となりますよ

ね。

松居先生；ある医大付属保育園の園長先生が、医者をやっている母親は駄目だ、子どもが熱を出したら、休むのではなく注射を打って薬を飲ませて預けに来る、と嘆いていました。病気の時くらい休んで、どんな病気か分かっている、演技でいいからおろおろしてくれば、親子の絆が1年分くらい育つのに、とおっしゃっていました。まあ、最近の勤務医は、ひどく過酷な環境で働いていますから、もうこんなことを言っても無理かもしれませんがね。でも、医者だからこそ、幸せに健康に働いてほしいです。

O先生；子育て支援センターの開設について、これはお願いみたいなものなのですが、ご自分の出来る範囲でしていくことだとおもいます。一番大事なことを選びながら進めていく。進めている間に勉強もできるでしょうから。役所に文書で提出しておくことも大事ですね。質問を役所に返していくということ。

M先生；いろいろありがとうございました。

1. 園部代表あいさつ

年末の忙しい中を縫ってきてくださってありがとうございます。皆さんの園でも生活発表会やお遊戯会などの準備でお忙しいことと思います。私の園では、お遊戯会を取り払い、「一緒に遊ぼう会」として親子の絆を深めるために、一緒に何かをしてもらうという機会にしました。

今年は、木工を使って森の動物づくりを行いました。パーツを親子で集めて作るのです。親子で話し合っている姿が、そこかしこで見られました。大体お父さんがメインで作っていて、子どもはそれを真剣に見ている。こちらがあっただかい気持ちになりました。いい光景だな、と。それが第1部。第2部では、歌を歌ったり、お遊戯をしたりしているところを見てもらっています。「親心を育めたなあ」という1日になりました。

今日は、この会で薦めている「一日保育士体験」についての取材に日本経済新聞社の記者さんが後ほどいらっしゃいます（事務局注；平成20年12月27日夕刊生活面にて掲載されました）。

そして、この会の顧問をしていただいています、立正大学教授、原田先生の退官記念講演が平成21年1月7日10時半より行われますので、ぜひお運びください。

2. 松居先生より

あらためまして、こんにちは。今日は2点。お話したいことがあります。

まず1点。一昨日講演した保育園での話です。その講演は生活発表会の後で行われました。お父さんたちは保育園に来た時は、だいたい顔が固まっているのですが、生活発表会でウサギの扮装をさせられたのですね(笑)。すると、しょうがなく!?お父さんたちの顔つきが変わるのです。一番喜んでいるのは、もちろんお母さんたちです。ウサギになった瞬間のお父さんの顔を見て、お母さんたちがほっとする。それが保育園の大切なところではないでしょうか。

お父さんたちの心の中にも、自分の幼稚園・保育園時代が生きていて、その部分を夫婦がお互いに見合うということも非常に大切だと思います。保育園というところはすごいところですよ!普通のサラリーマンをウサギにできちゃうのですよ!深いなあ(笑)。会社の社長には出来ないことです。校長だって知事だって出来ない。それが、園長や主任には出来る。お母さんがウサギになって、お父さんがよろこぶのではなく、お父さんをウサギにして、お母さんがよろこぶ、これが良いのです。お父さんをウサギにしちゃう権利が、園長にはある(笑)。すごいなあ。ここが人類にとって大事なところですね。

もう1点は、知っている人からメールが来ました。その内容は、フランチャイズの保育所経営を打診されたのだそうです。その方は、現在サラリーマンで、子ども2人いて家のローンもある。私にこう聞くわけです。「(この話を受けたら)年収800万円くらいになりますか?」。私は愕然としました。300万円の権利金を払って、月5万円のフランチャイズ料を納める。こういった保育所を3か所位受けると月収が100万円くらいになると説明されたそうです。保育士は一人居ればあとはパートでいい、というのだそうです。

まるで、ネズミ講みたいな話です。本当にネズミ講なら最初の方は儲かりますけども。その方には、そのお誘いを断らないでね(笑)と返事を書きました。断らないで、見学に自分も連れて行って欲しくないか、その仕組みを見てみたいと思ったのです。そのフランチャイズは全国に700か所位保育所を持っているそうです。

そんな話が、保育所経営の素人の人の所へ行き、牛井屋のチェーンを始めるがごとのノリで、勧められているのです。保育がこんなネズミ講みたいなことに使われるようになるとは、本当に驚きです。

3. フランチャイズの保育所～保育士が幸せになれる保育所とは?

○先生；フランチャイズもそうですが、私が怖いと思うのは、ただ預けたい、というお母さんが増えていることです。子育て支援がさらに充実し、毎日行ける場所が確保され、育児休業制度がしっかりしていけば、預けずに済むのかとも思います。

松居先生；こういうフランチャイズの保育所がなくなると、困るというお母さんがたくさんいることはわかります。が、こういった保育所の経営や保育方針などは、子どもの立場を無視して、野放し状態ですね。

○先生；(フランチャイズ系は) 運営がうまい。マニュアルもカリキュラムもすべて用意していますから。

松居先生；カリキュラム通りにやってくればいいのですが、この場合は、時給850円計算のパートを雇う計算になっているんです。親御さんの代わりに知育、徳育などとパンフレットに書いてありますが、保育所を商売としてやっているのだから、「親心を育む」ってやらないですよ。親がいなくなると困るから。親に都合の良いように、「親心」という部分には見て見ぬふりを始めています。経済不況で、母親が働かなくてはならない。だから、どこでもいから子どもを預けることは仕方のないことだ、という状況が出来上がっていく。

○先生；それは今の親の「質」の問題なのですかね？

松居先生；親の「質」は親としての「質」。保育所の「質」はまた少し違うところにある気がします。厚生労働省がきちんとそういった保育所を認可し、中身を精査してくことをすれば、こういったフランチャイズの保育所はなくなっていくと思います。

株式会社の参入としてはとても良心的にやっているベネッセの保育所監理部の方と話をした時に、今保育士がやめると、ベネッセの看板を持ってしても、だんだん補充がきかなくなっているそうです。

(○先生から、後で送られてきた厚労省の資料を見て驚きました。19年度の資料で、一年間に新設される認可外保育所が594か所。廃止休止が約492か所。ベビーホテルが、新設が193か所、廃止休止が177か所というのです。この数字をみれば、このビジネスがどんな状況かわかります。しかも、77%の認可外保育所に立ち入り調査が行われ、50%が指導監督基準に適合していない。ベビーホテルの場合、95%に立ち入り調査が行われ、70%が基準に達していない。こんなことで日本の未来は大丈夫なのでしょうか。0歳から5歳までの子どもたちの過ごす時間を、あまりにもないがしろにしています。)

○先生；責任を負わされないと勤められる傾向なのですかね。派遣・パート等々、「いてくれればいい」というレベルなら、保育士も辞めない。我々も、園児と保護者が幸せになった上で、保育士も幸せになる保育園というものを考えなくてはなりません。

事務局 高木；経営する側としては、興味深い話題になってきました（笑）。今日いらっしゃる先生方、当然園長先生方は除いてですが、実際「働き続けている理由」というのはありますか？「働き続けることができる条件」みたいなものがあれば、ぜひ聞かせて頂きたいのですが。いかがでしょう？（と、K先生にふる）

T O保育園 K先生；私は中途採用ですが、職員間の人間関係が良いと長く勤めやすいですね。

事務局 高木；具体的にお聞きしてもいいですか？

K先生；連携が取りやすい、ということでしょうか。確かに今職員が一斉に取れる休み時間などはありません。けれども朝会や園庭遊びの時や、通りすぎりに（笑）等、少しの時間で話を通る。信頼関係があるというか、協力関係が出来ているということだと思います。

○先生；そういった園では、自分の子どもを自分の勤めている園に預けている保育士がおられるのではないですか？

K先生；はい。

松居先生；自分の子どもを預ける。しかもその人をよく知っている、という人間関係が大事です。信頼関係の中で、子どもは安心して育つのです。

○先生；「(他人に) 愛される子ども」を育てるのも親の役目。やはり母親との関係が基本でしょう。

松居先生；親と保育園との信頼関係、保育士同士の信頼関係がカギになっているわけですね。

M先生；お聞きしたいのですが、園にいる時は、母親に対しても「○○先生」と呼ばせているのですか？

事務局 高木；そうですね。子どもの方がよくわきまえていて（笑）、勤務中に保育園で親の姿を見かけても、寄ってきませんでしたね。

事務局 保泉；うちも年子で、自分の保育園に預けていましたが、「先生」とよんでいました。後、お泊り保育で、夜トイレに行くのに私ではなく、わざわざ担当の保育士を起こしているのを見て、ちょっとさびしかったですね(笑)。

松居先生；ここに居る保育士の皆さんにとって、自分の保育園の保育が世界一ですからね！これがいいんです。

O先生；園長の子どもにたいして特別な対応をされると、こまるなあ、と思っていました。子ども自身も横柄な態度が出ないのがよかったなと(笑)

園部代表；うちもです。平等に扱っていただかないと。保育士にそれだけを頼みました。

松居先生；アメリカで校長先生の集まりに参加したことがあります。そこで、先生方に聞いたのです。「読み書きできない教師はいますよね」「はい」「授業に美術も音楽もないですよ」「はい」「じゃあ、お宅のお子さんはどうされているのですか？」「いい担任に当たるように手配しています」と堂々といわれました。

K先生；保育士として、自分の仕事に責任があって、「自分の子どもの行事」の休みが取りにくいということもあります。保育士の交代要員が難しいです。主任がフリーだけれども、実際手が空いている保育士はいないのが現実です。自分自身の子どもを担当している保育士もいますが、問題は起きていません。子どもの行事にはおばあちゃんに頼んでいってもらうこともあるようです。

松居先生；お祖母ちゃんがいる、いないは大きいですね。

I先生；小さい子がいる家庭が優遇されていませんよね。子どもの行事や病気で堂々と休めない。

事務局 高木；他に、いかがですか？

H保育園 A先生；保護者さんとの対応で、20年前とは違うな、と感じています。20年前くらいは、保護者さんも保育園に「いつもありがとうございます」といって迎えに来られていました。子どもの成長を親とともに喜べる関係でした。今は「(保育してもらうのが)当たり前」。お遊戯会の役ひとつとっても、保護者さんが納得できずにいろいろとおっしゃることも…。

松居先生；昔の親は、子どもを見てもらうということに対して、感謝していま

した。

A先生；もう1点気になっていることが。子どもたちが落ち着きにかけています。子どもたち自身が変わったのでしょうか？

松居先生；親が落ち着きなくバタバタしている、ということもあると思います。焦っている。すると、保育園に対する要求が、子どもをしつけてくれ、みたいになる。公立などは特にこういう要望が親たちから出てくるようです。どんなに保育所や幼稚園で子どもをしつけても、小学校でおかしくなっています。5年生くらいから子どもが言うことをきかなくなったり、奇妙な行動に出始める。

O先生；子どもと母親が対話で来ていないのが気になりますね。いつも「あとで」とか排除されたり、罵詈雑言を浴びせられたり、親が会話を受け止めていないので。それが不安です。

A先生；年長児でもいるのですが。なにかあったら、パニックを起こしたり、自分のジャンパーのつってある所へ行って、まゆ玉みたいにくるまって。親に受け止めてもらう経験が少ないような気がします。

4. 園部代表より

興味深い話が続きませんが、次に忘年会も控えていますので。これで終了とさせていただきます。本当にお忙しい中、長時間にわたり、ありがとうございました。

さて、この会では隔月で勉強会をしていこう、という試みがあります。年明けの1月には立正大学の原田先生に「子どもの育ちと成長・発達」という題で勉強会をお願いしています。また2月はこのような定例会。3月には共励保育園の長田先生を講師に迎え、勉強会にしたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

5. 次回案内

平成21年1月26日(月) 14:00～

第三なでしこ保育園 3階 子育て支援センター室
以上